

## 授業改善プラン【長坂小学校・国語】

(読むこと)

### □本校の課題

- ・目的や必要に応じて、文章の中で中心となる言葉や文に注意しながら読んだり、その言葉を用いて文章の内容や自分の考えをまとめたりすることに課題がある。

### ○改善に向けての方策

- ・本校の課題から、発達段階に合った課題を明確にして指導していく。

(低学年)

\*時間的な順序や事柄の順序、文章全体の構成に気をつけて、内容の大体を読ませる。

\*何について書かれた文章であるかを捉えさせる。

\*文章の要点やあらすじなどにかかわって、文章の中で大事になる言葉や文を書き抜く経験を積ませる。

(中学年)

\*目的に応じて、中心となる語や文を捉えさせる。また、自分の思いや考えを書くときに、中心となる語や文を適切に用いてまとめさせる。

\*大事な言葉や表現の生かし方などを考えて、文章を引用したり要約したりする経験を積ませる。

\*根拠を述べるための表現「理由は～からです。」を身につけさせる。

(高学年)

\*目的に応じて、文章の重要な点を表現に即して的確に押さえて読み、要旨を捉える経験を積ませる。

\*筆者がどのような事実を挙げて理由や根拠としているか、また、どのような意見や主張で読み手を説得しようとしているか、などについて読み、それに対する自分の考えを明確にさせる。

\*条件を満たしながら、自分の考えを整理して書く学習場面を意図的に設定する。

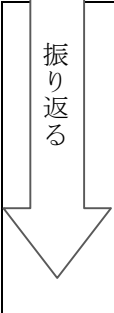
- ・授業の中に対話をとり入れる。深い対話が生まれるための課題提示、発問、補助発問、関係づくりなどについて改善していく。

### ◆具体的な取組（授業の構想）

- 1 児童の実態を把握し、改善に向けて「見通す・学び合う・振り返る」の学習活動を設定する。

#### 【授業の基本的な流れ】

見通す	つかむ	①単元・本時の学習を見通す。 （前時の「今日の学び」を生かす。） ②本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>成果物</b>の提示</li> <li>・ <b>学習計画表</b>の作成</li> <li>・ <b>初発の感想</b>の活用</li> </ul>
学び合う	考える 深める	③課題に対する自分の考えをもつ。【自分との対話】 ④対話し、学び合う。【仲間との対話】	<p style="text-align: center;">実態や単元に合った入れ子構造や並行読書を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>文中の言葉に立ち返って注意深い読みを促すような</u>  <b>発問の工夫</b></li> <li>・ 授業の流れや、思考の過程、文章の構成等、  <u>「学び」が見える</u>  <b>板書の工夫</b></li> <li>・ 読み取ったことや考えを書かせる。<b>（書く活動の重視）</b>            →目的に応じて対話を入れる</li> </ul>

	<p>まとめる</p>	<p>⑤めあてに対するまとめを書く。</p> <p>⑥授業を振り返り、今日の学びを書く。または発表する。 (まとめ=今日の学びとなる場合もある。)</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>記述</b> させる。(学習感想、または手紙・日記・吹き出し等 学習の流れに合った形で。)</li> <li>・ 今日の学びを、次時の学習につなげる。</li> </ul> </div>
---	-------------	---

#### ◆授業を支える取組

- 1 授業時間に限らず、朝学習や自主学習なども活用した指導の積み重ね。
  - ・ 漢字や漢数字、ローマ字を正しく使えるよう繰り返し指導していく。
  - ・ 話の大事な点に注目して聴くことを指導していく。箇条書きやキーワードのメモ書きなどを効果的に使わせる。
  - ・ 主述の関係や修飾と被修飾の関係を、文脈の中で確かめられるよう、線や矢印を用いて照応する関係を視覚的に捉えたり、語順を入れ替えて照応を確かめたりする活動を取り入れる。
  - ・ 自分の書いた文章を読み返して間違いを正すようにする。
  - ・ 慣用句や、様子を詳しくする言葉（擬声語や擬態語）、対義語などを取り上げて指導する。
- 2 学級集団づくり
  - ・ QU の分析を参考にし、学級の実態把握やよりよい学級集団づくりに努める。
  - ・ 自分から進んで友だちに話したり、分からないことを尋ねたりするような、対話の生まれる雰囲気づくりに努める。
  - ・ 実態に応じて、対話のスキルトレーニングを行っていく。
- 3 情報の活用
  - ・ ICT や、視覚的資料を有効に活用する。
- 4 「社会科研究部会」「家庭学習・家読推進部会」「学習環境部会」との連携。
  - ・ 家庭学習や家読について家庭の協力も得ながら、学習習慣を身につけさせる。
  - ・ 図書館を活用し、並行読書や関連図書を紹介に取り組む。
  - ・ 学習環境の整備、授業規律の基本等、共通理解のもとで取り組む。